

聖徳大学収蔵名品展

アンデルセン

作品と人生



令和7年1月15日(水)～4月25日(金)

【開館時間】 9:00～17:00

観覧無料

【休館日】 日曜・祝日、学事日程による休業日

* 1/18, 3/7～8, 4/1 は休館します。

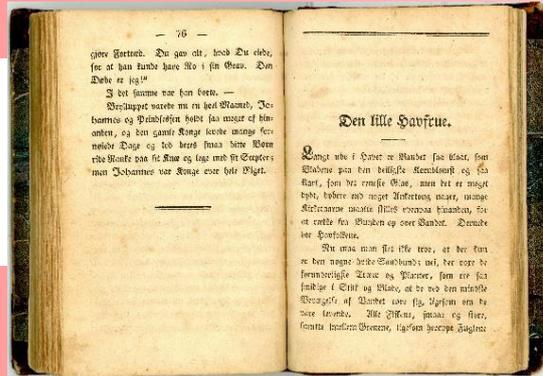
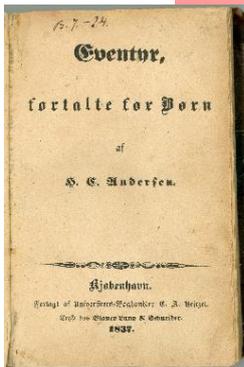
【会場】 聖徳大学 8号館1階 企画展示ギャラリー

JR常磐線、新京成線松戸駅下車 東口より徒歩5分 (車での来場はご遠慮ください。)

お問い合わせ先: 聖徳大学・聖徳大学短期大学部 TEL 047-365-1111(代) 図書館事務室

■ デンマークの童話作家ハンス・クリスチャン・アンデルセン(Hans Christian Andersen)は1805年に生まれ、1875年に70歳で亡くなりました。今年は生誕220年、没後150年の節目に当たります。生涯に書いた童話の数は150余編。『みにくいアヒルの子』や『雪の女王』、『マッチ売りの少女』といった童話は皆さんもよくご存じのことと思います。舞台俳優や詩人を志したこともあったようですが、やがて童話集が評判となり、童話作家として認められて、「愛の童話作家」「童話の王様」と呼ばれるまでになりました。アンデルセンは「人生は、最も美しいおとぎ話です」と書き残しています。展示を通して彼の人生に思いを馳せていただければ幸いです。

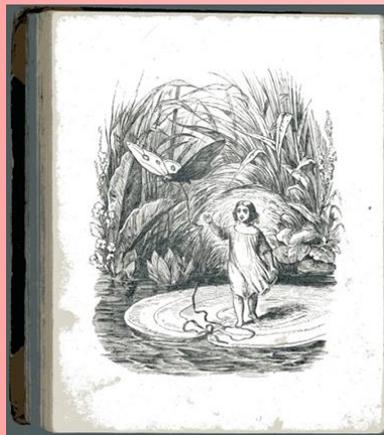
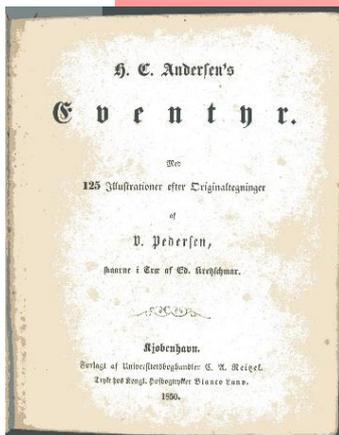
■ 主な展示資料：童話集等の初版本、直筆の献辞やメッセージ、挿絵本など



『子どものための童話集(第3集)』
1837年、コペンハーゲン

「人魚姫」「皇帝の新しい服(はだかの王様)」などを収録。

右は「人魚姫」の冒頭部



『童話全集』
1850年、コペンハーゲン

発表済みの童話45篇に、ヴィルヘルム・ペデルセンの挿絵125点を添えたデンマーク語による最初の挿絵入り童話集。「親指姫」のほか、「みにくいアヒルの子」、「人魚姫」、「はだかの王様」など有名な童話が、挿絵とともに収録されている。

右は「親指姫」の挿絵

切り紙(コピー)

アンデルセンは切り紙の名手としてたくさんの素晴らしい作品を残している。オリジナルはデンマークのアンデルセン博物館に収蔵されている。



同時開催!

聖徳大学収蔵名品展

「ディズニー・セル画」

1月8日(水)~4月25日(金) 『リトル・マーメイド』
5月12日(月)~7月31日(木) 『ミッキーの王子と少年』

会場: 聖徳大学 利根山光人記念ギャラリー(8号館1階)